

Labo News

発行元：臨床検査部 June 28 2024 Vol.78

●第1検査室からのお知らせ

●SP-D(サーファクタントプロテインD)院内測定のお知らせ

2024年3月21日からSP-D(サーファクタントプロテインD)の測定を院内で始めました。

測定機器：Labospect006(日立ハイテックフィールディング)

測定試薬：ナノピア SP-D (積水メディカル株式会社)

測定範囲：(15.0～1000)ng/mL

外注 SRL との相関： $Y=0.9948X+12.79$ $r=0.9940$ (N=50)

備考：KL-6、肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)及び肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定となります。

材料は血清で冷蔵(2～8)℃保存、7日間保存分まで追加可能です。

夜間・休日は預かりとなります。

連絡先 第1検査室 内線 2203 [文責 近藤 英斗]

●第2検査室からのお知らせ

●凝固検査の試薬変更について

2024年4月26日より下記の検査項目において試薬変更いたしましたのでご案内します。

変更項目：凝固検査用試薬及び標準血漿

変更内容：試薬の販売中止・溶解操作の簡易化・試薬の安定性・コスト削減のため以下の試薬に変更いたしました。この変更による測定値への有意な影響はありません。

APTT 試薬においては、従来試薬よりヘパリン感受性が高くなっており、高用量のヘパリン投与時に延長しやすくなります。3時間で50単位/kg24時間で20000単位に相当する量での血中濃度は0.35単位/MLです。通常使用する10000単位/日の血中濃度は0.1～0.2単位/ML程度で、このヘパリン使用量での測定値にほとんど影響はありません。

測定試薬 レボヘム PT・レボヘム APTT-SLA・レボヘム AT・レボヘムプラスミノゲン

レボヘム α 2-アンチプラスミン・レボヘム PC (すべて sysmex 社)

凝固検査用標準血漿 コアグトロール N (Sysmex 社)

関連：

項目名	回帰式	相関係数	N数
PT(sec)	$Y=0.953x-0.576$	0.9766	60
PT(INR)	$Y=0.926x-0.021$	0.9761	60
APTT(sec)	$Y=1.130x-6.449$	0.9206	60
ATⅢ(%)	$Y=0.987x+2.457$	0.9920	54
PLG(%)	$Y=1.025x-5.731$	0.9784	53
PC(%)	$Y=0.934x+0.815$	0.9985	54
APL(%)	$Y=0.931x+4.744$	0.9455	53

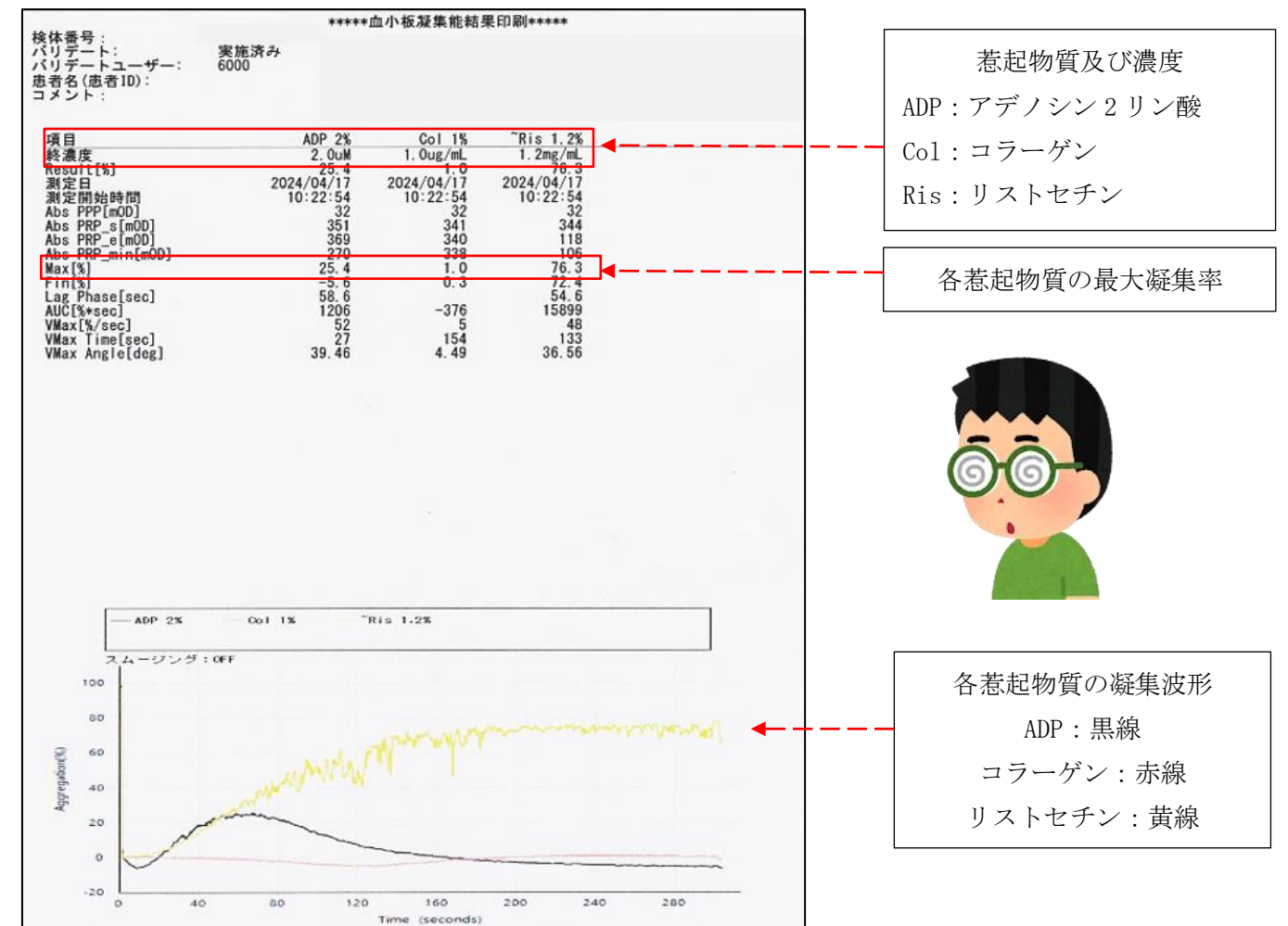
●測定機器変更及び試薬変更に伴う血小板凝集能検査の変更について

2024年4月12日より血小板凝集能検査の測定機器及び試薬変更を下記の通り行いました。また、報告書の様式も変更になりました。報告書は下図のように CITA 上に取り込まれます。凝集能検査は予約検査となっています。オーダーをする際は内線 2213 へご連絡をお願いいたします。採血当日は乳びの影響を避けるため、空腹時又は食後 6 時間以上経過後の採血となっています。

変更内容：検査試薬販売中止のため、血小板凝集能検査試薬及び測定装置を変更しました。この変更による測定値への有意な影響はありません。

測定試薬：レボヘム ADP・レボヘムコラーゲン・レボヘムリストセチン (すべて Sysmex 社)

測定装置：全自動凝固測定装置 CN-6000 (Sysmex 社)



臨床的意義として血小板機能異常症等の鑑別に用いますが、抗血小板薬の薬効評価として

ADP：クロピドグレルの薬効評価，コラーゲン：アスピリンの薬効評価で用いることもあります。

連絡先 第2検査室 内線 2213 [文責 野原 大]



写真：測定装置：全自動凝固測定装置 CN-6000 (Sysmex 社)
迅速な測定結果を臨床側へ報告するため、2台体制で運用しています。